

## 机間指導での具体的な言葉かけ いつ、何を、どのように見取り、生かすか。

机間指導は目的に応じてタイミングを選びましょう。

- 授業の序盤: 一人一人の実態に応じた指導を。
- 授業の中盤: 具体的に個に応じた指導を。
- 授業の終盤: 学びの成果を把握し、交流に生かす指導を。

一人一人の様子をていねいに見取りましょう。

終わったら、〇〇くんと読み合ってみましょう。  
(課題が済んでいる児童には次の提示をしましょう。)



……。  
(思案中の児童には声をかけないことも大切です。)

支援は個に応じて柔軟に的確に行いましょう。

先生と一緒に読んで、大事なところにサイドラインを引いてみよう。そこをヒントにまとめてみて。



p.〇の△行目もよく読んでみると、考えがうまくまとめられるよ。

評価したことを全体の指導に役立てましょう。

とてもよい気づきをしていますね。ぜひ皆に伝えてください。進んで手を挙げてね。



みんなと違った視点でまとめているので紹介しましょう。このあと指名しますよ。

## 「机間指導」まちがっていませんか？

### 見直そうあなたの「机間指導」

元新宿区立西戸山小学校教諭 やすだ きょうこ 安田 恭子

この間、「あなたは実によく『キカンサンポ』をしていますね。」って言われたんだけど…。それってどういうこと？  
褒められたのかな？



えーっ。ちがうよ。  
それは「あなたは、子どもたちの机の間をよく歩いているけれど、ただ歩いているだけじゃだめだよ。」って言われたんだよ。

かつて、机間巡視という言葉が使われていましたが、「巡視」でもなく「散歩」でもなく、「机間指導」は、まさに児童一人一人をしっかりと見取って授業をより活性化する、大切な指導です。  
効果的に行いたいですね。



## 「机間指導」4つのポイント



- ① 目的を明確に。
- ② 一人一人に合った指導を。
- ③ 座席表を有効に使おう。
- ④ 「みんなに同じに」でなくてよい。



1

今、自分は何のために机間指導をしているのかを常に考えましょう。つまずきを探すためですか？ 次の学習に生かすためですか？

- 
- 
- 
- 

3

座席表を使って、一人一人の様子を書き込んでおくとう便利です。記号化してチェックするのもいいですし、何を指導したかも記録できます。

- 
- 
- 
- 

2

子どもの実態はさまざまです。ちよつとしたヒントでピンとくる子なのか、丁寧に確認しないと納得できない子なのか、実態に合わせた指導をしましょう。

- 
- 
- 
- 

4

「いつでも、どの子にも同じように」机間指導をしなくてよいのです。今日は、この列を重点的に……次はあちらを……という焦点化も大切なことです。

- 
- 
- 
- 

いちばん大切なことは、「機を捉えて」指導することです。今、一生懸命取り組んだところを、すかさず褒めて認めてもらえたら、その子は十分満たされた気持ちになるでしょうし、どうまとめているか困っている時に助言をもらえたら、焦燥感に陥ることなく学習が続けられます。さらに、できるだけ子どもたちの目線に合わせて指導しましょう。後ろからそっと手をそえてあげることも、ときには必要かもしれません。何より、一人一人の身になって指導にあたりたいものです。



## 横から・斜めから子どもを「みる」

京都女子大学教授 吉永 幸司

### (1) 教師になってよかったと思うとき

教師になってよかったと思うことがある。作文の時間、次の語句が見つからなくて困っている子に、ヒントの言葉を示すと、急に勢いづいて鉛筆を動かすようになったときや、それほど上手ではないけれど、がんばって音読をしている子の横で耳を澄まして聞いているときなどである。

国語の授業では、教師は黒板を背にして、子どもを見渡していることが多い。そのときは、授業の進め方に力が入り、個々の子どもの様子があまり見えていない。しかし、「机間指導」はそうではない。子どもの学習ぶりを横から、斜めから、そして、背中越しに見たり、心臓の音が聞こえるような位置にいる。だから、子どもの様子をしっかりと見ることができる。一般的にいわれている、子どもの目の高さで見るのである。「机間指導」で大事なことは、学習活動の深まりやつまずきにすぐに対応することである。

### (2) 「机間指導」で子どもを「みる」とはどういうことか

「机間指導」というのは、発問や指示の後、個別に考えをノートに書いたり、少人数で話し合いをするときに行う。そのとき、教師は、個々の子どもを「みる」ことが中心になる。「机間指導」の「みる」には次のようなものがある。

#### ① 学習活動の全体像を「見る」

発問や指示をした後、教室を二巡すること、つまり「机間指導」である。指示通りにできているかどうか、発問は理解できたかなど、その時々への対応や、学級全体の傾向を知るための「見る」である。

#### ② 学習課題や問題の取り組みの様子を「観る」

全体像を把握した後は、指導が必要な子は誰かということに目を注ぐようにする。ノートが書けているか、課題への取り組みは大丈夫かなどと見る視点を決めて「観る」のである。指導の観点を決めた「机間指導」をするのである。

#### ③ 学習の進め方や理解の実態を「診る」

指導を必要とした子やグループに対して、課題を解決するために方向や内容を与えるときがある。学習の仕方や理解の方向は確かであるかということ把握するときの「診る」である。

#### ④ 学びの様子を把握し個に応じて「看る」

個々のつまずきに対して、「これを書きましょう」「ここを読みなさい」などと具体的に指示し助言をするのである。それは子どもをつまずきを丁寧に捉え、理解や活動を促すときの子どもが見方が「看る」である。机間指導の効果がよく表れ、教師になってよかったという気持ちになるときである。